

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	佐賀県立致遠館中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	/		0	4	1 2
生徒数	1 5 9			0	1 5 9	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導による「確かな学力」の向上

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1 年生・英語 県内外69の小学校から進学してくる生徒の実態として、生徒一人一人の英語に対する生活経験、学習経験に大きく差が予想されるため。</p> <p>1 年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、6年間の中高一貫教育を考えた場合、学習の基礎作りとしてスタートが重要と考えられるため。</p> <p>1 年生・国語 朝自習の時間を使って、一斉読書を実施することにより、読解力、論理的思考力をつけていくことが全ての教科の基礎につながるものと考えられるため。</p> <p>平成15年度開校のため、本年度は1年生を対象に研究を進めるが、平成16年度以降は各学年において、上記教科で研究を進めていく。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

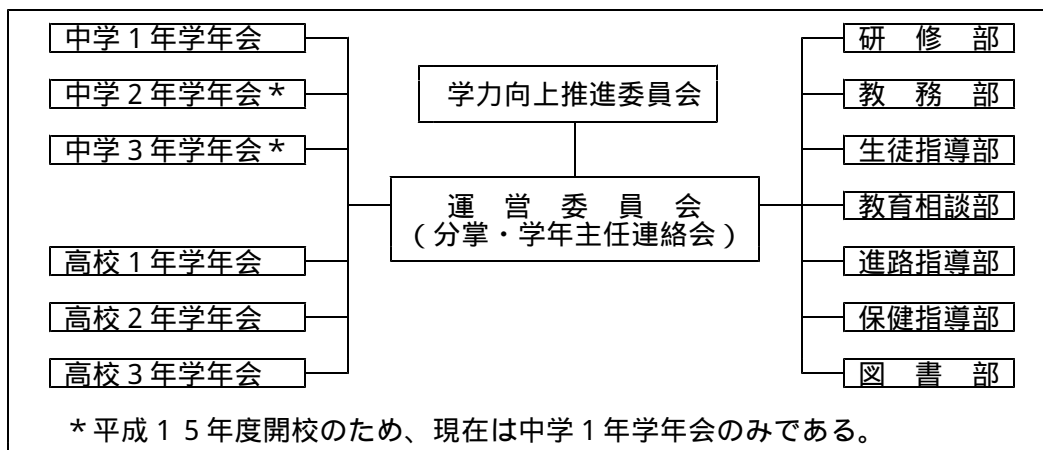
平成 15 年 度	<p>テーマ 生徒の個性や適性、学習到達度等の実態把握とそれに対応する指導法の研究</p> <p>研究の見通し（仮説） 併設型中高一貫教育校において、入学してくる生徒の実態を十分に把握することにより、6年間の計画的・継続的な指導がより充実したものになる。</p> <p>研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・TTなど個に応じた指導のあり方の実践研究 ・読解力や論理的思考力を高めるための一斉読書の選書及び指導法の実践研究 ・進路意識を高め、併設型中高一貫教育校としての特色を出すための総合的な学習の時間「エリア・スタディ」の教材開発と指導法の研究 ・保護者や地域の人材を活用した教材の開発及び指導法の研究 </p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 生徒の個性や適性、学習到達度等の継続的な実態把握と6年間の中高一貫教育の中でそれに対応していく指導法の研究</p> <p>研究の見通し（仮説） 併設型中高一貫教育校において、前期2年間での個に応じた指導を充実させることにより、生徒一人一人が以後4年間の学習に対して積極的に取</p>
--------------------	--

り組むようになる。

- 研究の内容・方法
- ・習熟度別指導など個に応じた指導のあり方の実践研究
- ・新聞のコラム、論説等を用いての読解力や論述力を高めるための実践研究
- ・進路意識を高め、併設型中高一貫教育校としての特色を出すための総合的な学習の時間「エリア・スタディ」の教材及び指導法の改善
- ・保護者や地域の人材を活用した教材の開発及び指導法の研究

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 学習到達度調査の実施(5月、11月)

5月に昨年度文部科学省が実施した「学習到達度調査」の問題を活用して、入学時点での学習到達度を調査した。結果の概況は次のとおりである。
(数字は%)

	国語	社会	算数	理科
本校平均	86.9	86.3	80.6	90.7
全国平均	82.3	68.1	60.7	74.4

また、入学して半年経った11月の時点で実施した結果の概況は次のとおりである。2つの調査は調査方法、調査対象が異なる(5月実施分は全国の公立中学校での抽出校、11月は国公立の中高一貫教育校の一部)ので、単純な比較はできないが、本校の生徒の学習到達度は全国的に見てもおおむね良好であるといえる。

(数字は%)

	国語	数学	英語
本校平均	69.2	73.6	69.1
全国平均	65.4	73.8	68.2

(2) 学習習慣、学習環境調査の実施（11月）

全国の中高一貫教育校と共通した設問で、11月に実施した。結果の概況は次のとおりである。

（上段の数字は本校、下段は全国平均でいずれも数字は%を表す）

授業がある日の学習時間	4時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	ほとんどない
	2.0 3.3	36.4 32.5	42.3 42.4	14.6 13.7	4.6 8.2

授業のある日の学習時間は、全国平均とほぼ同じであり、毎日予習復習を行う習慣がきちんと身につけていると言える。

休日の学習時間	4時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	ほとんどない
	18.5 21.9	51.0 40.5	20.5 23.0	4.6 7.5	5.3 7.2

授業のある日の学習時間と同様に、休日の学習時間についても全国平均とほぼ同じであり、休日の部活動を半日程度に申し合わせていることとあわせ、部活動と学習の両立がうまくできているものと思われる。

中学校に入学してからの生活を振り返って点数をつけると	10点	9、8点	7、6点	5、4点	3点以下
	2.7 1.8	28.2 18.2	48.3 42.7	17.4 29.5	3.4 7.5

生徒自身による「学校満足度」は、他の中高一貫教育校と比しても高いと言える。

(3) 本校入学に対する満足度調査（10月）

学校評価の一部として、保護者を対象に本校独自で実施した。結果の一部を次に示す。（数字は%）

お子様を致遠館中学校に入学させていかがでしたか	とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	まったくよくなかった	どちらでもない
	40.5	51.6	0	0	7.8

入学されてからの教科指導についてどう感じられていますか	とても満足している	満足している	あまり満足していない	全満足していない	どちらでもない
	24.5	55.6	6.6	0	13.2

保護者として、本校の教育指導体制に十分満足していることが伺える。

2. 今後の課題

本年は授業の中では積極的な習熟度別指導を導入せず、単元末や定期考査前後の特別学習会での指導に力を入れた。来年度は2年生に進級するが、生徒の心理面などに考慮しながら、効果的な習熟度別指導のあり方について実践をおして研究していくことが必要である。なお、その際には他のフロンティアスクールでの取組も参考にしていくことが重要であると考えます。

併設型中高一貫教育校として、他県の先進校とも情報交換を行いながら、本校の特色を出しつつ、6年間を見通した学習指導のあり方について改善・検討を加えていくことが必要であると考えます。

学力把握のための学校としての取組

単元ごとの小テストなどによる生徒一人一人の定着度の把握とその結果に応じた指導

例えば、毎週水曜日の朝は数学の朝自習として1週間の学習内容の定着度を把握している。生徒一人一人の問題ごとの正誤表を作成し、必要に応じて補充指導を行っている。

文部科学省が実施した学習到達度調査問題利用による実態把握・・・前述

生活時間、家庭学習状況調査等による学習環境の実態把握・・・前述

全国規模による学習到達度、学習状況調査等への参加・・・前述

学級担任、教科担当者、教育相談部、進路指導部による「生徒理解連絡会」の定期的開催

学期に一回、個人面談を実施する前に上記の職員が資料を基にして、生徒一人一人の学習状況等について情報を交換し、より充実した個人面談になるよう工夫している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 併設型中高一貫教育校としての準備段階からの取り組みと、今年度の教育活動を紹介します。研究成果を他校に普及させるために、以下のような場で発表を行った。

- ・九州地区普通科高校校長会 [佐賀]
- ・九州地区中高一貫教育推進フォーラム [熊本]
- ・全国理数科高校校長会 [東京]

(2) 日頃の教育活動を公開するとともに、今後の教育活動についての示唆を得るために、以下のような団体等からの学校訪問依頼を受け入れた。この他にも多数の学校、研究機関等に資料の送付を行った。

- ・文部科学省中高一貫教育研究担当者、各県及び市町村教育委員会、各市町村議会、中高一貫研究推進校など全国各地から延べ25団体（約250名）

(3) 学校外の教育力を活用するために保護者や地域に対して積極的に広報活動を行った。

- ・学習内容、学習指導の実態の広報のために学級通信、学年通信等の積極的な発行。
- ・一日フリー参観デーを設定（11月・3月）し、総合的な学習の時間「エリア・スタディ」の取組及び授業参観を実施した。

-
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無